

興味ある「亜種」の話題 リュウキュウサンショウクイと“チバエナガ”

今月号の表紙写真を見て、あれ？と思われた方が多かったのではないのでしょうか。「？」の理由は、ひとつは、3月号なのになぜ夏鳥のサンショウクイの写真なの？もう一つは、日ごろ知っているサンショウクイとなにか違う？ということです。「表紙のことは」をお読みいただければ、この鳥が、夏鳥として渡来している亜種サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* とは違う亜種リュウキュウサンショウクイ *P.d.tegimae* であることがお判りだと思います。

両亜種の外見上の違いは、前者が胸から腹にかけて白っぽいのに対し、後者は黒っぽい。また額の白色部の広さや背中の色にも差があり、全体的に後者が黒っぽいとされています。また、前者の鳴き声はリズム感があるのに、後者は単調という違いも知られています。

もう一つの違いはその生息地域で、かつてサンショウクイは、春に九州以北に渡来し繁殖する夏鳥に対し、リュウキュウサンショウクイは名前の通りおもに琉球(沖縄)・南部九州に留鳥として生息するということでした。しかし、近年、前者は急激に数を減らし、後者は九州～関西まで分布を広げているということです。そのあたりの研究については、「西日本におけるリュウキュウサンショウクイの分布拡大」(三上かつら・植田陸之 2011年)として論文となっています。

北上の勢いがここ数年来関東地方にまで及んできて、神奈川・埼玉あたりからも観察例がきこえてきました。そして、東京でも撮影者の大室 清さんによって、2017年1月11日に都立野川公園の小金井市内で初めて記録されました。同公園では仲野 遵さんからも報告があります。また、同年2月12日に、吉柳隆資さんが八王子市犬目で2羽を観察。今冬にも記録されています。他に観察例をお持ちの方はお知らせください。

ところで、タイトルにあるもうひとつの“チバエナガ”ってなに？という方はもっと多いと思います。まず、図鑑等には載っていない仮の名前だからです。外見上で目立つのは顔の模様で、普通のエナガと同じものからほぼ白いものまで、さまざまなパターンの個体がいるということです。今のところ、千葉県では普通に見られるということで、つけられた名前が“千葉柄長”というわけです。具体的には、月例探鳥地の谷津干潟周辺の緑地でエナガを見かけたら、少し追ってみてください。見慣れた顔【写真①】と違うものが混じっています【写真②・③】

日本野鳥の会千葉県の会報誌『ほおじろ』の2017年4～5月号には、千葉県各地での“チバエナガ”(ここでは「顔白エナガ」と表記されています)が写真付きで多数載せられています。

「なぜ、このような現象がなぜ起こっているのか?」「ほんとうに千葉県だけでみられているのか?」など疑問符だらけの現状です。DNAレベルの分析を必要とする内容だと思いますが、とりあえずは、エナガを見たら注意して見てみてください。そして同じような白い顔つきのエナガを都内でも見かけたら、すぐにご連絡ください。
[文・写真 川内 博]

